

APBA News

第2号

特定非営利活動法人 アジア
失明予防の会 (文責 竹岡)
<http://www.asia-assist.or.jp/>
APBA2010@gmail.com

第6回「NP0アジア失明予防の会」総会無事終了

第6回「NP0アジア失明予防の会」総会は昨年11月26日18:30より、京都府立医科大学学友会館内の青蓮会館にて行われました。出席・委任合わせて54人で、定款記載の通り1/5以上となり開催が成立いたしました。

総会は21年度の事業報告の承認並びに22年度（平成21年10月1日～同22年9月30日）の事業並びの総予算の説明が行われ、満場一致で承認されました。この1年間の皆様の絶大なるご協力をよろしくお願いいたします。

今年度の活動は、ベトナムを中心に、ラオス、ミャンマーでの眼科医療技術の教育・指導を引き続き実施いたします。ラオスでは栗原先生、ミャンマーでは藤田先生のご協力をいただけるなど、徐々に活動の輪が広がっています。つつあることは嬉しい限りで、今後ともよろしくお願いいたします。ベトナムでは経済発展により都市部での医療サービスは徐々にですが向上していますが、地方の農村部や山岳地帯では病院にも行けない失明した人が多くこの活動を待たれているのが現状です。1人でも多くの方の光を呼び戻すことが出来れば幸いです。

なお、10月1日現在の当会の個人会員は127名、団体会員は4団体となっております。

服部先生が「関西・こころの賞」を受賞

服部先生が昨年10月29日「関西・こころの賞」を受賞されました。以下に産経（関西）の記事を転記してお知らせいたします。

関西経済界を中心に精神面の豊かさを追求する「関西・経営と心の会」（代表世話人、木村皓一・三起商社社長）は29日、大阪市北区のリーガロイヤルホテルで、関西で地道な活動を通じて社会に貢献している個人や団体を表彰する「関西・こころの賞」などの授賞式を行った。

今回で22回目の「関西・こころの賞」には天王寺動物園（大阪市天王寺区）の宮下実園長、眼科医の服部匡志さん、サッカーチームのガンバ大阪の3組を選出。また、若手の人材が対象で今回が3回目の「関西・こころの奨励賞」には関西国際交流団体協議会の有田典代事務局長が選ばれた。

受賞者は木村代表世話人から表彰状などを受け取った。天王寺動物園の宮下園長は「あと5年で開園100周年を迎える。地球環境学習の拠点を園内につくりたい」とあいさつした。



服部先生の活動予定

・ベトナムにて

- 1月 ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院、テレコム病院にて眼科医療技術の教育・指導『Save the Vision』プロジェクトの一環
ビンフック省の総合病院にて貧しい人々に対して無償の白内障手術を予定（80人）
- 2月 ハノイ国立眼科病院、テレコム病院、フレンドシップ病院にて眼科医療技術の教育・指導『Save the Vision』プロジェクトの一環
ハイフォン眼科病院にて貧しい人々に対して無償の白内障・硝子体手術を予定（20人）
- 3月 ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院、テレコム病院にて眼科医療技術の教育・指導『Save the Vision』プロジェクトの一環
クアンニン省のタンエン総合病院にて貧しい人々に対して無償の白内障手術を予定（80人）
フエ市のフエ眼科病院にて貧しい人々に対し無償の白内障・硝子体手術を予定（30人）
- 4月 ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院、フレンドシップ病院にて眼科医療技術の教育・指導『Save the Vision』プロジェクトの一環
バクカン省の総合病院にて貧しい人々に対して無償の白内障手術を予定（80人）

服部先生の活動実績報告

- 10月、ミャンマー：ヤンゴンの仏教病院の見学、および現地の協力機関のリサーチ
ベトナム：ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院にて眼科医療技術の教育・指導
『Save the Vision』プロジェクトの一環
カマウ省の総合病院にて貧しい人々に対し、て無償の白内障手術を実施（100人）

11月. ベトナム：ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院にて眼科医療技術の教育・指導
『Save the Vision』プロジェクトの一環
トゥエンクアン省の総合病院にて貧しい人々に対し無償の白内障手術を実施（86人）

12月. ラオス：ビエンチャン国立眼科病院にて眼科医療技術の教育・指導および貧しい人々に対して無償の白内障手術を実施（40名）

栗原医師がベトナム地方のボランティア活動とラオスの活動に参加

ベトナム：ハノイ国立眼科病院、ハノイ市立眼科病院にて眼科医療技術の教育・指導

『Save the Vision』プロジェクトの一環
クアンニン省のカンファ総合病院にて貧しい人々に対して無償の白内障手術を実施（60人）

服部先生から地方での活動のお便り

1. カマウ(Ca Mau)省での活動紹介



ハノイの空港で手荷物のチェックインの様子です。

医療資材を満載したダンボールやバック類など計20個以上、ハノイからプロジェクトを行う田舎まで持ち運びます。

飛行機を利用する場合には、いつも重量がオーバーするために、空港職員と交渉しなければならず、今回も知り合いの空港職員を呼んできて、なんとかチャージ無しで通過しました。機材が同じ便に乗らず、遅れて到着することもあります。

カマウ省はベトナムの最南端の省です（地図で最下段の赤い部分がCa Mau省）。



えびの養殖で有名などころで、日本は99%のえびを海外から輸入していて、ベトナムからも多く輸入しています。その40%近くをこのカマウ省が担っているそうです。カマウに行くにはホーチミンで一旦降りて、ホテルに宿泊し次の日の朝4時に起き、小さな飛行機に乗り換えやっとたどり着くという、辺境の地です。どのスタッフも眠

そうにしていました。

患者さんが大勢押し寄せっていると聞いていました

ので、ホテルで一服している間もなく、すぐにカマウの病院へ駆けつけました。病院内は患者さんとその家族でごった返していました。日本からのチームが来ると聞かされると現地ではたくさんの患者さんが集まってきます。



3日間で100名の患者さんの手術です。総合病院の手術室の1室を借りて、手術を行いました。一人一人の患者さんを診察して、カルテなどに間違いがないように、名前と番号、眼内レンズの度数を入念にチェックします。気温は30度を超え、エアコンなどの空調設備がありませんので、汗だくでびしょりになりました。



手術をしている間、患者さんの家族は手術室の外で待っていますが、リスト後方の患者さんの家族は日が暮れるまでずっと待っていることもあります。何も文句を言わず、じっと待っている姿を見ていると、私たちもすごく責任を感じています。



手術が終わると、後片付けをして、ボランティアチームと病院スタッフらと夕食会が開かれます。この日はベトナム南部の名産の鍋料理でした。ベトナムでは乾杯をして、飲み干して握手をしなければ友達と見なされませんので、何度も乾杯し飲まされる羽目になります。

手術翌日は、手術を受けた患者さんやその家族に対して、手術後の点眼の方法や注意点、日常の過ごし方などを説明するために説明会を行っています。目薬をするのははじめてという患者さんもいて、説明に苦労することもあります。

2. トゥエンクアン(Tuyen Quang)省での活動紹介

トゥエンクアン省はベトナム北部の省です（先の地図で最上部の赤い部分がTuyen Quan省です）

トゥエンクアン省にはハノイから車で4時間かかります。峠をいくつも越えてやっとたどり着く山岳部の町です。そこにドイツのODAにより建てられた総合病院があります。眼科診察室の前にはたくさんの患者さんと家族が集まっています。北部は四季があり、冬には気温が10度以下になるのですが、暖房器具がありませんので体を温めるには着込むしかありません。



入院中の患者さんの様子です。一度に80名近く手術をしますので、遠方から来た患者さんが入院するベッドが足りず、一つのベッドを二人が共有して寝ています。このような様子はベトナムの政府系の病院では一般的です。相対的にベッド数が足りません。



少数民族の家族です。山岳部にはこのような衣装を着て、1年中過ごしている少数民族がいます。お母さんが手術を受けるということで、なんと兄弟姉妹が9人もいるらしく、家族総出で失明している

お母さんを半日かけて病院に連れてきたそうです。ベトナムはとても家族の絆が強い国です。手術当日、私と通訳のHoaiさんしかボランティアスタッフが集まらず（他の医師らは午前中ハノイで仕事があったため、夕方に駆けつけました）、手術する患者さんのチェック、手術室の準備、そして手術と、この日は40人の患者さんの治療を行うのに夜の10時ごろまで手術を続けていました。



手術後の診察をしている様子です。どの患者さんも眼帯を取ると笑みがこぼれます。このボランティア活動をやっていた良かったと思う瞬間で、前日の疲労を吹っ飛ばしてくれます。

ベトナム人の旧正月について

ハノイの事務所で服部先生のアシスタントを務めるHoaiさんから便りが届きました。テトは旧暦の正月ですが、旧暦は月の満ち欠けが基本になった暦です。従ってテトは太陽暦に対して一定ではありません。今年は2月14日が元旦になります。それでは、Hoaiさんのテトに関するコメントをお楽しみください。

ベトナムの文化は昔から中国の文化の影響を受けており、お正月も旧正月を過ごします。旧正月は例年新暦の2月中旬ごろになることが多いです。ベトナム人は一年間の仕事で稼いだお金はお正月の為に沢山物を買ったり、親にお土産をあげたりするためなどに使います。

旧正月はテトといいます。テトには上司の人とか尊敬している人とか世話になった人に対して「物をあげる」というチャンスです。子供たちにとっても親が新しい洋服を買ってくれるチャンスです。昔は今のよう裕福な生活ではなかったので、テトでは美味しいものを食べられるので、子供たちは喜んでいました。

テトの飾り物については、必ず桃の花とキンカンの木を飾ります。桃の花のピンクの色は幸せの印です。キンカンの黄色い色はお金が沢山入るように祈る習慣です。

仏壇の御供え物は「5つ種類果物」というものを飾ります。これは、青いバナナ、ザボン、キンカン、りんご、なしなどの果物です。

テトの食べ物については、必ず「Banh Chung」という煮込んだもち米の中に緑豆と豚肉が入っているものです。それから鶏肉、豚肉などです。ベトナムでは、ご馳走の時は蒸した鶏肉の料理が必ず出ます。大晦日までに必ず死んだ人と呼んで家に帰って来てもらう習慣があります。三日目か四日目ぐらい、つまりテトが終わるごろに仏壇に料理をあげて見送ります。そして、見送る時も偽札を燃やします。

年が明けて、最初の日には子供は実家に帰って、おじいさん、おばあさんそして、親にお年玉をあげます。これは日本の習慣とはまったく逆ですね。ベトナムではお年寄り小さい子供に多くあげます。二日目からは友達の家遊びに行ったりします。テトというと必ずお酒を飲まなければなりません。大晦日からテトの休みが終わるまで、飲むより飲まされることが多くなりますので下戸の人はすこし辛いです。

テトが終わって、仕事が始まっても、テトの気分が残っていて、ほとんど旧暦の1月いっぱいまで、仕事が軌道に乗れない日々が続きます。



手前のピンクの花が桃：Hoa Daoです。黄色の花が南部で飾られる花、梅：Hoa Maiですが、日本の梅とは違います。



金柑の細工物です。Hoaiさんの言われるように「金＝お金」を連想させる金柑は縁起のよい飾り物なのです。